

Weekly Michael's News

<今週の聖句>

2016年7月5日発行 No.7

「人の子は仕えられるためではなく仕えるために、また、多くの人の身代金として自分の命を
献げるために来たのである。」
(マルコによる福音書 第10章45節)

<これまでの練習の成果を歌声に乗せて…。音楽礼拝で聖歌隊が奉唱デビュー!?!>

先週火曜日、昼の礼拝が始まる時間には、いつもより多くの学生・教職員の姿でチャペルの座席が埋まりました!! その数、なんと51名!! 普段の礼拝が20~30名ですので、全体のイメージとして2倍近くの出席者となります。なぜそんなに多くの方がチャペルに集ったのか…? それは、この日、初めて聖歌隊が礼拝の中で奉唱を行ったからです!!



本番前、最後の楽譜チェック



衣装準備中 コッター似合う?



伊藤先生の最終チェック

この日のために、聖歌隊のメンバー10名は、慌ただしいスケジュールの中であってもチャペルに集まり、伊藤先生の指導を受けながら、練習を重ねてきました。その成果をこの日の奉唱で遺憾なく発揮してくれました。曲は、入学式でも歌われた聖歌482番「いつくしみふかき」。特に聴き応えを感じたのが、2番からオルガンの伴奏がなくなりアカペラになる所で、ベースを担当する男性の太い声を土台にしながら、女性陣のアルト・ソプラノが一緒になって美しいハーモニーをチャペルに響かせていました!! 礼拝終了後、お互いの歌声を讃え合うメンバーには、見えないけれど確かな繋がりが感じられ、次回(7/26)の奉唱に向けて動き始めています!!



ついに奉唱の時が!! ドキドキ!!



3部合唱の歌声が美しく響く…



出し切ったぞ!! 次回も楽しみ!!

6月27日(月) 前田 次郎(八代学院 理事長) テーマ:「神の励まし」

この世に生きる私たちには様々な悩みや苦しみがあるが、そんな私たちに聖書の言葉は癒しと力を与えてくれる。今日の箇所でも「私の軛(くびき…牛の首にかけて鋤を引く農耕道具)は負いやすい」とある。信じたからといって、全ての重荷や悩みから解放される訳ではないが、共に重荷を担い愛に気づく事ができる。神は人それぞれに違いを与えているが、だからこそ私たちはその違いを越えて愛し合う道を歩む事ができる。ローマ教皇は、世界の貧困問題について呼びかけをされている。私たちも、隣人の抱える痛みや苦しみのために祈る存在でありたい。

6月28日(火)は、音楽礼拝を行い、ついに聖歌隊が礼拝デビューしました!! 50名を超える礼拝出席者が与えられる中、積み重ねてきた練習の成果を懸命に発揮、美しいハーモニーをチャペルに響かせてくれました!! 次回は7月26日で、次は英語の聖歌に挑戦します!!

これからの活躍にも乞うご期待!!



6月29日(水) 平田 憲司郎(経済学部) テーマ:「タクシーを利用する時に私が心がけていること」

この世界にはたくさんのサービス業があり、タクシーもその1つだが、固有の特徴がある。それは密室で、しかも運転手に命を預けるという事だ。私は、これに気付いてから、タクシーに乗る時、いつも心掛けていた事がある。それは運転手に対して丁寧に挨拶する事だ。「自分は金を払っているんだから…」と横柄な態度で乗ると、車内の雰囲気が悪くなるし、何より危険だ。しかし挨拶をしてから乗ると、雰囲気が良くなるだけでなく予想外のサービス(観光地であれば案内や情報提供など)を受ける事もある。相手に対して敬意を払う事で拓かれる世界があるのだ。

6月30日(木) 宮本 明(リハビリテーション学部) テーマ:「子どもの反抗期について」

可愛がっていた長男が急に反抗期を迎えた。母に向かって大声で叫び、弟に暴力を振るうので厳しく指導したが、今度は私にも暴力で抵抗するようになり、どうしたらいいか分からなくなった。悩んだ末に答えを求めて開いた聖書には、自分自身の姿を問う言葉が記されていた。仕事で帰りが遅くなり、寝顔しか見ていない自分。気分次第で子供を怒鳴りつける自分。問題だと思っていた息子の姿は、自分の中に答えがあった。今は一緒にご飯を食べ、ケンカがあってもなぜそうなったかをじっくり尋ねるようにしている。教育職に携わる自分、子育てから学ぶ事は多い。

7月1日(金) 後藤 誠(リハビリテーション学部) テーマ:「地震・防災」

日本の面積は世界の面積の400分の1だが、ここに世界の地殻エネルギーの10分の1が集まっているといわれる。4月に起こった熊本地震。熊本出身の私、小さい頃から阿蘇山で地殻エネルギーが解消されると思い込んでいた私は、ニュースを見て心が痛んだ。阪神大震災の時も淡路に住んでいたため、経験した大きな揺れは忘れられない。地震はいつ起こるか分からない。南海地震が発生した場合、神戸への津波到着時間は2時間と言われる。本学も避難訓練を実施しているが、皆さんの準備はどうだろうか? 地震が起こる可能性は「もしも」でなく「いつも」ある。いつ来ても対応できるよう、心の準備をしたい。

(文責:野間光顕)

聖歌隊メンバーの奉唱後コメントを紹介!!

藤波 心 (リハビリテーション学部 2年生)



「前回の入学式と比べ、今回の礼拝では、ハーモニーを重点的に練習しての発表となりました。他のパートと合わせて歌うことは思ったより難しく、苦戦しながら、みんなで作り上げてきました。当日、美しいオルガンと共に、広いチャペルで歌う聖歌は、本当に美しく、歌っていて気持ちがよかったです。また次の機会に向けて、練習に励みます!!」

長渡 咲季 (リハビリテーション学部 2年生)

「今までたくさん練習してきて、自信も少しついていたのですが、いざ本番となると緊張しました。ハモるのも苦手だし、歌も下手なのですが、みんなで歌うことが楽しかったです。これからもみんなの足を引っ張らないように頑張ります。」



岡崎 健介 (経済学部 1年生)



「自分の歌を人に聴かせるのは、(付属高校の)合唱コンクール以来だったので、すごく緊張しました。長年吹奏楽をやっていたのですが、楽器とは勝手が違います。最初の練習でも「あれ? みんなと音合ってる?」という感じで、ハーモニーを作るのは大変だと実感しました。本番もみんなの音を聴くのに精一杯でした。もっと練習します。」

寛 裕樹 (リハビリテーション学部 2年生)

「大勢の方々にお集まりいただき、その中で歌うことができ、本当に良い経験となりました。またこの経験を次に生かしていけたら...と思っています。」



山本 紗百合 (経済学部 3年生)



多くの方々がおられる中で、聖歌を奉唱できたことは、とても良い経験になったと思いました。練習の時よりも良い声が皆出せていたと思いました。とても緊張しましたが、楽しく歌うことができたので良かったです。これからもっともっと練習して、レベルを上げていきたいです!!

乃木 大樹 (経済学部 1年生)

私は、大学に入るまでチャペルで聖歌を歌ったことがなく、ましてや聖歌隊の団員として歌うことになるとは思ってもみなかったのですが、とても貴重な体験となりました。私自身、音楽が好きなので、とても楽しかったです!!



須田 諒 (リハビリテーション学部 1 年生)



聖歌隊礼拝デビューを体験して、たくさんの人の前で約 2 カ月の練習の成果を出せてよかったと思います。私は中・高と吹奏楽部で活動しており、幼い頃からピアノも習っていたので、楽器を使って発表する事には慣れていました。しかし、聖歌隊は合唱で発表するので、最初はうまくやっていたいけるのかが不安でした。しかし伊藤先生の丁寧なご指導や、聖歌隊のメンバーたちの一生懸命な練習意欲を見て、協力して取り組むことができました。今回、大成功で本当に良かったと思います。

八代 祈 (経済学部 3 年生)

今回初めて聖歌隊として礼拝に出席させていただきました。少し緊張しましたが、自分の声とみんなの声とオルガンの音が一つに相俟った時、とても感動を覚えました。毎週の聖歌隊の練習を重ねると素敵な歌声になるんだなと実感しました。もっともっと綺麗な歌声になれるように、頑張ります!!



森広 樹 (リハビリテーション学部 2 年生)



昨日の音楽礼拝は、たくさんの人に来ていただき、そこで全員の声が一つになってとてもいい合唱だったと思います。個人的には音が取れていない所もあったので、今後の活動で修正していきたいです。次の奉唱では英語の聖歌を歌うので、しっかりと練習していきたいです。

土井 綾乃 (リハビリテーション学部 2 年)

まず楽しんで歌えたことが良かったと思います!! また、今後もこのように楽しみながら、さらにレベルの高い事を行えたらいいなと思いました。また、初めはなんとなく…で始めた聖歌隊でしたが、人が増え、歌う場面が増え、楽しいと感じています。



伊藤 純子 (本学オルガニスト 聖歌隊指導担当)

今回の「大成功」は、すべて、メンバーひとりひとりの努力と注意力の賜物です。本番が一番良かったですね! 一生懸命になればなるほど、つついカんでしまって周りが聴こえなくなるものです。ふんわりと耳を傾けながら、柔らかい発声で、温かく混ざり合う響きを目指して、これからも根気良く、ひとつひとつ作り上げていきましょう! 回を重ねる毎に、新しい喜びと発見が待っています。聖歌隊メンバーは随時募集中です。

